

# Effects of Prolonged Night Shifts on Salivary $\alpha$ -Amylase, Secretory Immunoglobulin, Cortisol, and Chromogranin A Levels in Nurses

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森田, 洋佑 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001522">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001522</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1459 号

長時間夜間勤務が看護師の身体に及ぼす影響

(Influence of long-term night-shift work on nurses)

森田 洋佑 (もりた ようすけ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

2 交代勤務シフトで勤務している看護師 25 名を対象に、唾液による長時間夜間勤務の身体に対する影響について調査を行った。

夜勤 (16 時間) の勤務を行う看護師 13 名と、日勤 (8 時間) の勤務を行う看護師 12 名を対象群とした。両勤務は連続 4 日間とし、勤務前後は休日とした。唾液採取は、休日は起床時と就寝時とし、日勤勤務者は勤務の前後で採取、夜勤勤務者は勤務の前後及び休憩の前後で採取し、 $\alpha$ -Amylase、s-IgA (分泌型免疫グロブリン A)、Cortisol、Chromogranin A を測定した。

その結果、 $\alpha$ -Amylase 活性は、夜勤勤務者が日勤勤務者と比較して高かった。s-IgA は、朝高く夜にかけて低下するという日内変動が知られている。日勤勤務者は日内変動を示したが、勤務日では変動が小さかった。夜勤勤務者では、1 勤務目と 2 勤務目では異なった変動を示した。Cortisol は、早朝は高く、夜間になるにしたがって低下するという日内変動がある。日勤勤務者は日内変動動態を示し、夜勤勤務者では、勤務前が高い値を示し、休憩前に低下、休憩後に増加、勤務終了後 (午前中) に低下するという動態を示した。夜勤勤務者は勤務開始が朝であるかのような動態を示した。休日は日勤勤務者と夜勤勤務者共に日内変動を示した。Chromogranin A は夜勤勤務者が日勤勤務者と比較して、高い値を示した。

以上のことより、夜勤 16 時間勤務は、サーカディアンリズムの変調をきたしていることが示唆された。